

# ◆◆◆ LE POÈME HARMONIQUE ル・ポエム・アルモニック ◆◆◆



宮廷の薫り 高い伝統を継承する彼らが所沢ミューズ初登場！

## フランスで最も熱い古楽アンサンブル

として名高く、上質な舞台作品、演奏会を、世界各地で上演し続けている“ル・ポエム・アルモニック”が、この秋、いよいよ所沢にやってきます。

長らく日本のファンの中で、来日公演を待ち望まれていた“ル・ポエム・アルモニック”。その初来日は2009年。そして2012年に続き3度目となる今回の日本ツアーは、いまや古楽ファンにとどまらず日本中から熱い視線を集めています。

古楽は苦手・・・という方も、聴いたことがない・・・という方も、目からうろこ、一聴の価値あり！17世紀のヨーロッパにタイムスリップする晩秋の午後、理屈抜きで楽しんでいただきたい公演です。

## 音楽監督は超イケメン！！

ヨーロッパで最もエキサイティングな音楽家の一人と言われるリュート/ギター奏者のヴァンサン・デュメストル。1997年、彼のもとに一流の演奏者、歌手たちが集まり“ル・ポエム・アルモニック”は結成されました。以来、数多くの古楽アンサンブルがひしめくフランス音楽界で、ひとときその名を輝かせ続けていられるのは、彼らの音楽的センスがずば抜けているから。レパートリーは、ルネサンス期からバロック期（16世紀末～17世紀前半）のフランス音楽を“核”としていますが、文化的・時代的につながるイタリア、スペイン、イギリスなどの15～18世紀前半の音楽にまで及びます。

各地の音楽、その時代の美学をとにかく研究し尽くし、当時の生活を彩った宮廷音楽、教会音楽、そして街角の音楽を生き生きと蘇らせる。演奏法だけでなく、曲の並べ方、照明、衣装、歌手や俳優の所作に至るまで、妥協を許さず、とことんこだわりぬいた演出で、世界中の聴衆を魅了しているのです。

今回の所沢公演では、彼らの神髄であるフランス「宮廷歌謡」と「17世紀のフランスで演奏されていたスペインの音楽」を、ヴァンサン・デュメストル自ら、日本向けに編み直したプログラムによって披露されます。

©Geoffroy Lasne

【音楽監督 ヴァンサン・デュメストル】

# ヨーロッパに一大旋風を巻き起こした大規模舞台作品

“ル・ポエム・アルモニック”というグループ名は、「当時の詩学・美学にこだわり、音楽をとりまく文化風土を踏まえた上で、視野を広くもって演奏していく姿勢」を意味しています。

その結晶ともいえる金字塔が、『町人貴族』（モリエール作、リュリ作曲）。最新研究を取り入れた歌唱法、朗読法、そして蠟燭のみという舞台照明。まるで太陽王の時代にタイムスリップしたような前代未聞の大規模な舞台は、2004年夏、オランダのエトレヒトで初演され、ヨーロッパ中で大きな話題となりました。2005年には、ヴェルサイユ宮廷劇場をはじめとする名だたる劇場を巡り、2006年初春には、パリの名門シャンゼリゼ劇場へと進出。そのDVDは、初年度で2万枚という異例のセールスを記録し、あらゆる賞を総なめにしました。その後も、リュリのオペラ『カドモスとハルモニア』、『バロック・カーニバル』など次々と大がかりな舞台作品を発表。世界中の都市で130公演以上、観客数は15万人を超えています。文字通り、“ル・ポエム・アルモニック”は、異例の大成功をおさめているのです。

今回の日本ツアーは、銀座・王子ホール（完売）、兵庫県立芸術文化センター、そしてここ所沢ミュージズのみ。

ぜひ、この所沢ミュージズ マーキーホールで、彼らの魅力をあますところなくお楽しみください！



## パリの街角、恋の歌

エール・ド・クール（宮廷歌）とスペインの調べ

2014年11月15日(土) 13時30分開場/14時00分開演

所沢市民文化センターミュージズ マーキーホール

全席指定：4,000円 **好評発売中**